

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771600636		
法人名	有限会社新名防災設備		
事業所名	グループホーム 青い鳥		
所在地	香川県仲多度郡多度津町葛原451-1		
自己評価作成日	平成22年7月5日	評価結果市町受理日	平成21年10月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.kagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3771600636&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成22年9月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活を充実させ、その人の希望を叶え、笑顔で居る事の多い施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

『1.優しく接します 2.寂しくさせません 3.一緒に行動いたします 4.本人が理解できる接し方をいたします』の理念に向けて、管理者・事務長等は現場の状況を迅速に判断、即座に対応してリーダーシップを発揮し、利用者に対して適切な介護が提供できるよう職員と連携している。
また、地域密着型サービス事業所として、地域との関わりについては常に考えているテーマであり、利用者の生活権の向上に向けて日々努力している。緑の多い環境の中、利用者の穏やかでゆるやかな生活の継続ができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	グループホーム 青い鳥 (1F)	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の申し送り時に復唱する事で、理念を自分自身の行動にいかしている。	青い鳥の理念として、『1.優しく接します 2.寂くさせません 3.一緒に行動いたします 4.本人が理解できる接し方をいたします』を申し送り時に復唱、玄関に掲示しており、職員間の理念の共有を図っている。	理念の実現に向けて、方針や重点項目をあげて職員に達成度を確認するなど、具体的な取り組みを実施できる体制づくりに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議やボランティアの受け入れ等により、少しずつでは有るが地域の方との交流が増えてきた。また散歩の時などにも挨拶をする事で、日々の交流の機会を増やしている。	シルバー人材センターやボランティアの受け入れ、自治会入会へのアプローチをすることなど、地域との交流の機会が増えている。また小学校や公的機関を利用して介護相談を実施している。散歩時にも挨拶をする事で、日々の交流の機会を増やしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談などを中心に随時支援方法等、地域で役割が持てるよう努力している。 今年度は町内の介護教室で講義もさせて頂いた。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事の報告等を行いながら、ご家族等の参加者の意見を取り入れ、随時サービスの見直しを行っている。	運営推進会議では、利用者やサービスの実際を資料にまとめて会議を開催し、家族等の参加者の意見を取り入れながらサービスの向上に生かしている。平日の開催にすると働いている家族の参加が少なくなる問題がある。	会議の議題として、事業所側の説明だけでなく、地域の防災等の課題をあげるなど今後も活発な議論を期待したい。 また、会議資料は充実しているので、今後は会議録を作成し、継続性のある会議運営に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談等を必要に応じて随時行い、助言等を頂いている。	町役場・地域包括支援センターと日頃から連絡を密に取っている。折に触れ地域包括支援センターへ訪問し事業所の実情や個人情報に留意した利用者の情報提供を伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現状では玄関の施錠は理解を得ている。身体拘束に関しては職員は正しく理解し、事業所全体でしない取り組みを行っている。	玄関を施錠することについては、家族や運営推進会議で説明し、理解を得ている。 身体拘束に関わるマニュアル等があり、職員は正しく理解して、事業所全体で身体拘束をしない取り組みを実践している。	身体拘束廃止委員会等、課題に対して定期的、継続的に協議できる機会や担当者の設置等について検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し職員がいつでも閲覧できる状態にある。その上で常に指導を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修などに参加し学ぶ機会を持っている。アセスメントなどで個々の必要性については話し合い活用できるよう支援を行っている。現在のところ該当する方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談の段階でグループホームの事を十分説明し、理解納得が得られてから契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご家族から出たご意見は、責任者に報告し対処するようにしている。	ふれあいボックスを玄関に設置し意見を聞く体制を作っている。家族が2週間に1回は必ず訪問しているので、面会時に意見があれば、即対応し、事業所運営に反映できるものがあれば反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	適時ミーティングを行う事で意見を出し合い、それを基に行事計画等運営に反映させている。	適時または緊急時にミーティングを開催して、職員間で意見を出し合い、行事計画等運営に反映させている。	職員の人数的な問題もあるが、職員の役割を明確にし、定期的な会議の開催と会議録の作成で、より充実した組織運営を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の状況を把握し、個別に指導を行いながら、目的を持ちやりがいの有る環境になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の状況に合わせた研修に参加させている。希望者は参加できる体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	合同で研修をおこなったり、相互評価を行う事で交流を深め、良いところは取り入れる事によりサービスの向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に十分な時間をアセスメントを行う事で、要望等を把握し、見学、体験利用を通して安心して利用できるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームの説明を十分にした上で、希望や不安点を伺い、利用形態の提案を行う事で良い関係が築ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行い、その人にあった必要なサービスが提案、提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各種行事や活動を一緒に行いながら、職員は利用者様の知恵や知識を学び共に生活する事の喜びを共有しながら過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所内での生活の状況を伝えたりしながら、家族と事業所が協力して利用者様が有意義な生活を送れるよう支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時など、ゆっくりと過ごして頂ける環境を整えられるよう努めている。	職員は笑顔で挨拶し、地域の方が気兼ねなく訪問できるような雰囲気づくりに努めている。また、家族にお願いして馴染みの人や場所を確認し、本人との関係が途切れないよう、支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	地域における利用者様同士の関係を把握し、互いに関われるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の相談依頼は継続的に関わり、適時支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なにげない言葉や表情を読み取り出来る限り、本人の思い出に添えるよう努めている。	利用者のホーム利用前の生活状況をアセスメントに情報集約し、なにげない言葉や表情を職員が読み取り、情報と照らし合わせながら、本人の思いに添うよう努めている。意向やアセスメントから連動されたケアプランを作成している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにて得た情報を職員間で共有し可能な限りサービスに取り入れ環境の大きな変化が無いよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人、ご家族等関係者の方から十分な確認を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて随時関係者の意見を取り入れ、カンファレンスを行い、介護計画を作成している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方を常に検討している。職員の意見や関りを記述した『その人シート』もモニタリングとして活用し、チームでつくるケアプランとして、アセスメント→ケアプラン→モニタリングと課題に対して連動性がある。また、毎日の記録として、『生活(暮らし)アセスメントシート』『健康管理表』があり、機能的な帳票となっており、入浴・食事・排泄の状況が分かりやすいものとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録にて日々の様子を記録し、特に情報の共有を必要とする事については、専用の記録を行い、介護記録に反映させ実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の希望や現状に応じたサービスの提供、活用が行えるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防訓練や運営推進会議などを実施し地域との協力体制を築き支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人ご家族の、希望を聞き取り、これまでのかかりつけ医師との関係を断つ事無く支援している。また、医師との連携を取りながら適切な医療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医は、利用者・家族の希望を大切にしている。内科・精神科・歯科の定期的な訪問診療と受診をしており、医師と連携を取り適切な医療が提供できるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内での健康管理は看護師を中心に、常に報告相談が行える体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院を訪問し担当医師や看護師と情報交換を行っている。また、ご家族との連絡も密に行い、退院時の受け入れ等、その都度相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の希望を聞き、担当医師と相談し適切な支援を行っている。	利用者・家族の希望を入居時や必要時に確認を取り、担当医と相談しながら、重度化した場合や終末期について対応している。家族と担当医の判断で入院するケースがほとんどであるが、看取りの対応について協議している。	重度化した場合や終末期のあり方について、対象利用者がいない場合でも、事業所の方針の作成や、職員のターミナルケアの研修実施等について期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師を中心に、必要に応じて職員に対して緊急対応の助言を現場の活動を通して行いながら、実践力が身に付くよう指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、定期的に方法を確認できるよう働きかけている。また地域住民の方にも声をかけ協力をお願いしている。	避難訓練を年2回実施しており、地域住民にも運営推進会議等を通じて声かけをし、協力を依頼している。4月には夜間の避難訓練を実施した。また、防災に対する意識が高く、浄水槽に水を3トン余分に確保しており、災害に対する施設の環境整備は整っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬しながら、誇りやプライドを損ねない対応を行っている。	人生の先輩として、敬意をはらった対応がなされている。職員間の申し送りは利用者に配慮し、情報が拡散しないよう、記録物は事務所保管としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で常にご本人が選択できる環境を整え、自分で選び決めるという喜びを感じられるような支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	身体状況に応じた活動を提案はするも、ご本人の意向を大切にし個々のペースで生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの生活歴を把握し、その人らしくおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みは職員が把握しており、細かな献立の工夫が行っている。利用者様と職員は出来る範囲で一緒に準備や片付けを行っている。	食事を一連の協同作業としてとらえており、出来る範囲で一緒に準備や片づけを行い、楽しめるように支援している。管理栄養士による献立が主であるが、利用者の好みによって細かな工夫を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量のチェックを行い、少ない方に対してはその都度、捕食など必要な栄養が摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた口腔ケアを実施し一人ひとりの口腔内の状態を把握しながら、適切な支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しながら、声かけや誘導を行い失敗を減らし排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄支援に係る計画・実施・結果が表記されている『生活(暮らし)アセスメントシート』に基づいて、一人ひとりの排泄パターンを把握している。事前の声かけや誘導をし、排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食事内容など便秘予防への対応とセンナ茶の引用により、服薬に頼らない排泄を個々に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別入浴にて、ゆっくりとご本人のペースで入浴できるよう、午前午後と本人の意思を尊重した入浴サービスを行っている。	週2回は入浴するようにしており、入浴日は基本的に決まっているが、本人の意思を尊重して時間を決めている。廊下面に浴室があるが、入室の際のプライバシーについては浴室内で壁を作り対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の心身の状況や習慣に合わせた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師処方薬の内容はファイルし、職員は常に内容の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じた内容を職員とともに活動出来るよう支援している。(野菜の収穫、花作り、洗濯、散歩、買い物、外食)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩、畑作業等、個々の希望に沿って支援している。また季節を感じて頂ける様、季節の花の見学、外食、昔馴染みの地域の訪問など一緒に外出出来るよう支援している。	一日一回は必ず外出している。時候に応じて、近くの川や森に出かけている。また、地域の馴染みの方と一緒に外出できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望やご家族と相談の上、状況に応じて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に沿うよう対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が落ち着き安心して生活出来る空間作りを心がけている。また季節を感じて頂ける様、館内の飾りを行う工夫をしている。	共有空間が点在しており、玄関・廊下・居間・食堂・庭と使用目的に沿う広さと環境が整えられている。また、テレビも必要最小限にし、季節感のある飾りや空調、光、建物の色など利用者が落ちついて生活できるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の間、椅子、ソファーなどの配置を状況に応じて変え、思い思いに過ごせる空間作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の希望などを聞き取りながら、使い慣れた物や、好みの物を持って来られる事で安心して過ごせるよう工夫している。	備え付け家具以外に馴染みの物を持ちこむなどしてその人らしい居室づくりをし、安心して居心地良く過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、風呂等の場所の表示を行い、館内の移動がご本人自らの意思で行動できる工夫を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の申し送り時に復唱する事で、理念を自分自身の行動にかかしている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議やボランティアの受け入れ等により、少しずつでは有るが地域の方との交流が増えてきた。また散歩の時などにも挨拶をする事で、日々の交流の機会を増やしている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談などを中心に随時支援方法等、地域で役割が持てるよう努力している。 今年度は町内の介護教室で講義もさせて頂いた。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事の報告等を行いながら、ご家族等の参加者の意見を取り入れ、随時サービスの見直しを行っている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談等を必要に応じて随時行い、助言等を頂いている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現状では玄関の施錠は理解を得ている。身体拘束に関しては職員は正しく理解し、事業所全体でしない取り組みを行っている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し職員がいつでも閲覧できる状態にある。その上で常に指導を行っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修などに参加し学ぶ機会を持っている。アセスメントなどで個々の必要性については話し合い活用できるよう支援を行っている。現在のところ該当する方はいない。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談の段階でグループホームの事を十分説明し、理解納得が得られてから契約を行っている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご家族から出たご意見は、責任者に報告し対処するようにしている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	適時ミーティングを行う事で意見を出し合い、それを基に行事計画等運営に反映させている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の状況を把握し、個別に指導を行いながら、目的を持ちやりがいの有る環境になるよう努めている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の状況に合わせた研修に参加させている。希望者は参加できる体制をとっている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	合同で研修をおこなったり、相互評価を行う事で交流を深め、良いところは取り入れる事によりサービスの向上に努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に十分な時間をアセスメントを行う事で、要望等を把握し、見学、体験利用を通して安心して利用できるよう配慮している。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームの説明を十分にした上で、希望や不安点を伺い、利用形態の提案を行う事で良い関係が築ける様努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行い、その人にあった必要なサービスが提案、提供できるよう努めている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各種行事や活動を一緒に行いながら職員は利用者様の知恵や知識を学び共に生活する事の喜びを共有しながら過ごしている。
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所内での生活の状況を伝えたりしながら、家族と事業所が協力して利用者様が有意義な生活を送れるよう支援しています。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時など、ゆっくりと過ごして頂ける環境を整えられるよう努めている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	地域における利用者様同士の関係を把握し、互いに関われるよう支援している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の相談依頼は継続的に関わり、適時支援をしている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なにげない言葉や表情を読み取り出来る限り、本人の思い出に添えるよう努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにて得た情報を職員間で共有し可能な限りサービスに取り入れ環境の大きな変化が無いよう努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人、ご家族等関係者の方から十分な確認を行っている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて随時関係者の意見を取り入れ、カンファレンスを行い、介護計画を作成している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録にて日々の様子を記録し、特に情報の共有を必要とする事については、専用の記録を行い、介護記録に反映させ実践している。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の希望や現状に応じたサービスの提供、活用が行えるよう努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防訓練や運営推進会議などを実施し地域との協力体制を築き支援している。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人ご家族の、希望を聞き取り、これまでのかかりつけ医師との関係を断つ事無く支援している。また医師との連携を取りながら適切な医療が受けられるよう支援している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内での健康管理は看護師を中心に、常に報告相談が行える体制が整っている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院を訪問し担当医師や看護師と情報交換を行っている。またご家族との連絡も密に行い、退院時の受け入れ等、その都度相談を行っている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の希望を聞き、担当医師と相談し適切な支援を行っている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師を中心に、必要に応じて職員に対して緊急対応の助言を現場の活動を通して行いながら、実践力が身に付くよう指導している。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、定期的に方法を確認できるよう働きかけている。また地域住民の方にも声をかけ協力をお願いしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬しながら、誇りやプライドを損ねない対応を行っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で常にご本人が選択できる環境を整え、自分で選び決めるという喜びを感じられるような支援を行っている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	身体状況に応じた活動を提案はするも、ご本人の意向を大切にし個々のペースで生活が送れるよう支援している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの生活歴を把握し、その人らしくおしゃれが出来るよう支援している。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みは職員が把握しており、細かな献立の工夫が行えている。利用者様と職員は出来る範囲で一緒に準備や片づけを行っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量のチェックを行い、少ない方に対してはその都度、捕食など必要な栄養が摂取できるよう支援している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた口腔ケアを実施し一人ひとりの口腔内の状態を把握しながら、適切な支援を行っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しながら、声かけや誘導を行い失敗を減らし排泄の自立に向けた支援を行っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食事内容など便秘予防への対応とセンナ茶の引用により、服薬に頼らない排泄を個々に取り組んでいる。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別入浴にて、ゆっくりとご本人のペースで入浴できるよう、午前午後と本人の意思を尊重した入浴サービスを行っている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の心身の状況や習慣に合わせた対応をしている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師処方薬の内容はファイルし、職員は常に内容の把握に努めている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じた内容を職員とともに活動出来るよう支援している。(野菜の収穫、花作り、洗濯、散歩、買い物、外食)
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩、畑作業等、個々の希望に沿って支援している。また季節を感じて頂ける様、季節の花の見学、外食、昔馴染みの地域の訪問など一緒に外出出来るよう支援している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望やご家族と相談の上、状況に応じて対応している。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に沿うよう対応している。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が落ち着き安心して生活が出来る空間作りを心がけている。また季節を感じて頂ける様、館内の飾りを行う工夫をしている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	置の間、椅子、ソファなどの配置を状況に応じて変え、思い思いに過ごせる空間作りを行っている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の希望などを聞き取りながら、使い慣れた物や、好みの物を持って来られる事で安心して過ごせるよう工夫している。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、風呂等の場所の表示を行い、館内の移動がご本人自らの意思で行動できる工夫を行っている。